

# 銚子ジオパーク市民の会 ニュース

屏風ヶ浦 (銚子市)

第 86 号

2018年8月23日 発行

発行責任者 工藤 忠男

編集責任者 藤身 隆雄

TEL 0479 24 2225

<http://choshi-geopark.com/>

## 「砂の世界を見てみよう」

松家 英彦

七月二十一日に表題のツアーにサポーターとして伊藤修二さん、内匠五月枝さんと共に参加しました。参加者は親子八組で小学生十一名を含む総勢二十一名で、半数が近隣の市からの参加でした。本ツアーの講師は、銚子ジオパーク推進協議会の山内専門員で、午前中は野外観察で大岩と大谷津の屏風ヶ浦に行きました。屏風ヶ浦では崖の下

の砂浜が黒い色をしており、これらは砂鉄であるとの説明を受けました。小学生に磁石が配布され、それぞれが磁石を黒い砂にくっつけると磁石にこもりと砂鉄がくっつくことを確認しました。

午後からは青少年文化会館の実験室で砂の標本作りと顕微鏡観察です。砂は野外観察に行った大岩と大谷津のものに加え、



利根川河口と海鹿島の砂の4種類を使用して標本を作りました。顕微鏡観察では「やったー。すごい！」と大喜びで、「宝石みたい！」と歓声が上がりました。そしてこれら4種類の標本の類似点と相違点をまとめました。

山内講師が終始にこやかな表情で丁寧に小学生たちに教えられ、事前に知識を与えずに小学生が自分で見たときの印象や驚きを大切にされるという指導の仕方が印象的でした。山内講師を始めスタッフおよびサポーターの皆さんお疲れ様でした。

## 「ヤドカリの行動を 探る」 加瀬久美子

7月29日、長崎海岸に21名の親子が集え、千葉大銚子実験場の菊池先生のツアー内容とヤドカリの生態の説明後、海岸でヤドカリの採集と生き物観察をしました。

## 親子で夏の自由研究ツアー特集 1

ヤドカリは最初の岩場では中々見つかりませんでしたが移動した岩場では見つけることができ、他に近くには綺麗な石や桜貝などもあり、子供達は大喜びでした。期待のジオ弁当も大好評で、午後からは、①採取したヤドカリの殻を圧縮器で

そーっと壊し、取り出したヤドカリを海水入りの透明パックに入れる。②先生が用意した3種類の貝(クボガイ、インダミガイ、レイシガイ)から大小の貝を数個選び①のパックに入れる。”という手順で、「ヤドカリの貝殻選択実験」をしました。

熱中症に注意を払いながら、まずは君ヶ浜海岸で海藻採り。前日までの台風の影響に打ち寄せられ、更に干潮時で種類も多い。子供達は海藻を採りながらも海の生き物にわくわく。糟谷先生の学生さん達が捕まえてくる生き物を、先生が1つずつ説明。皆目を輝かせて聞いている。

## 「海藻押し葉を作る」 藤本京子

午後は、なぜ銚子の海は豊かなのか、利根川の水源地まで遡ってのお話。森に降った雨は、栄養塩(窒素やリンなど)を川へ、海へと流し込み、植物プランクトンや海藻が栄養塩を吸収→動物プランクトン→小魚→大型の魚→私たちの食卓へと生態系の大きなつながりを学ぶ。さらに黒潮が親潮が多様な生き物をもたらしているよとのお話

動は？なんとヤドカリ達は自分に合った貝に入っていく、大きな貝の取り合い喧嘩が始まったのです。その光景に目を見張り、ヤドカリの世界も生存競争が激しいことを痛感しました。ヤドカリは、光、人の気配、音に敏感で、銚子に生息しているのは、イソヨコバサ

のヤドカリの行動は？なんとヤドカリ達は自分に合った貝に入っていく、大きな貝の取り合い喧嘩が始まったのです。その光景に目を見張り、ヤドカリの世界も生存競争が激しいことを痛感しました。ヤドカリは、光、人の気配、音に敏感で、銚子に生息しているのは、イソヨコバサ

のヤドカリの行動は？なんとヤドカリ達は自分に合った貝に入っていく、大きな貝の取り合い喧嘩が始まったのです。その光景に目を見張り、ヤドカリの世界も生存競争が激しいことを痛感しました。ヤドカリは、光、人の気配、音に敏感で、銚子に生息しているのは、イソヨコバサ

の参加が増えているのは、微笑ましい。子供たちの研究レポートの良き (2面へ)